

次世代育成支援対策に関するニーズ調査結果(意識部分)

1 調査趣旨及び目的

(仮称)札幌市次世代育成支援対策推進行動計画の策定に向けて、市民の方々の子育てに関する生活実態や要望・意見などを把握するために実施。

2 調査概要

(1) 調査対象

- ・就学前児童調査：札幌市の住民基本台帳(平成15年7月1日現在)から無作為抽出した就学前児童の保護者10,000人
- ・小学校児童調査：札幌市の住民基本台帳(平成15年7月1日現在)から無作為抽出した小学校低学年児童の保護者5,000人

(2) 実施時期：平成15年10月9日～10月24日

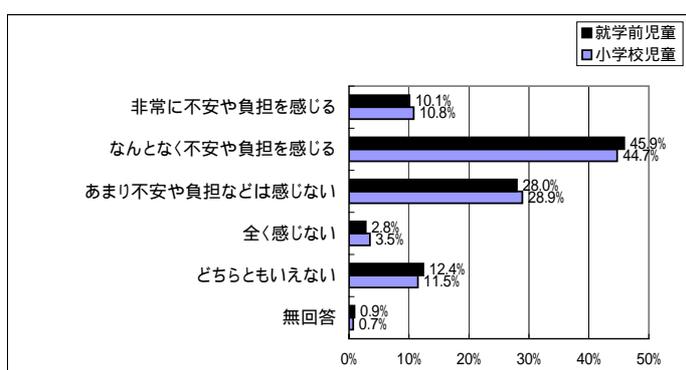
(3) 有効回答数

- ・就学前児童調査：4,938人(有効回答率 49.4%)
- ・小学校児童調査：2,283人(有効回答率 45.7%)

(4) 調査方法

- ・就学前児童調査：郵送法 / 設問数31問
- ・小学校児童調査：郵送法 / 設問数26問

1. 子育てに関して不安や負担などを感じていますか？



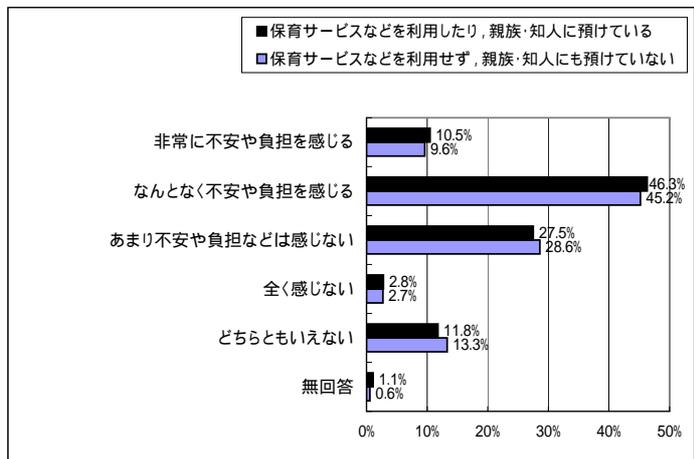
就学前児童：問23 小学校児童：問10

就学前児童と小学校児童の保護者の半数以上(就学前：56.0% 小学校：55.5%)が子育てに関して「非常に」あるいは「なんとなく」不安や負担を感じている。一方、約3割の保護者(就学前：30.8% 小学校：32.4%)が子育てに関しての不安や負担を「全く」あるいは「あまり」感じていない。

(参考)

「少子社会に関するアンケート」(平成11年 札幌市)では、「育児に対する不安や自信喪失等を感じたことがある」は67.1%、「あまりない」あるいは「一度もない」は26.3%という結果だった。

1-2. 子育てに関して不安や負担などを感じていますか？(就学前児童の保育サービス等の利用の有無別)



就学前児童：問7×問23

就学前児童の子育てに関する保護者の不安感や負担感、保育サービスなどの利用の有無にかかわらず、ほぼ同様の割合となった。

(保育サービスなど)

認可保育所、幼稚園、認可外保育施設、ベビーシッター、家政婦及びさっぽろ子育てサポートセンター事業

(参考)

「国民生活選考度調査(1997年 内閣府)」の「育児の自信がなくなる」主婦の割合

- 共働き主婦
 - 「よくある11.7%」「時々ある35.0%」 46.7%
- 専業主婦
 - 「よくある15.7%」「時々ある54.3%」 70.0%

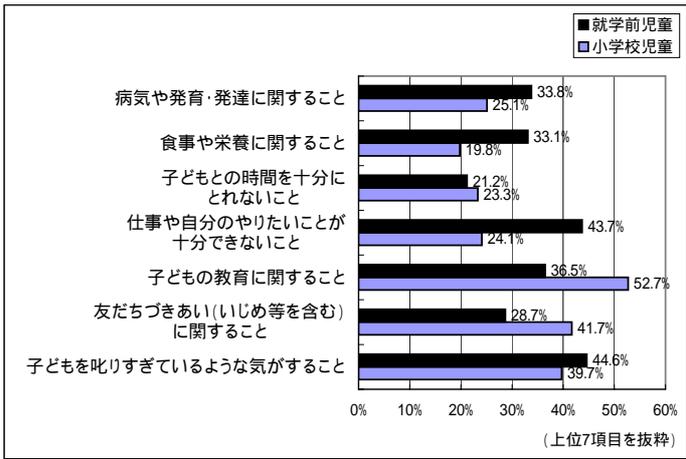
2. 子育てに関して、日常悩んでいること、または気になることはどのようなことですか？（複数回答）

就学前児童：問24 小学校児童：問11

就学前児童の保護者の方が、子どもの「病気や発育・発達」、「食事や栄養」といった子どもの健康等に関して悩んでいる割合が高い。また、「仕事や自分のやりたいことが十分できない」といった子育てによる時間的負担や自分のしたいことができないことによる精神的負担を感じている割合が高い。

一方、小学校児童の保護者は、「子どもの教育」や「友だちづきあい（いじめ等を含む）」といった学校生活などに関して心配する割合が高い。

また、就学前児童、小学校児童の約4割の保護者が、「子どもを叱りすぎているような気がする」と答えており、子育てに対する迷いなどを感じていることがうかがえる。



2-2. 子育てに関して、日常悩んでいること、または気になることはどのようなことですか？（複数回答）
（就学前児童の保育サービス等の利用の有無別）

就学前児童：問7×問24

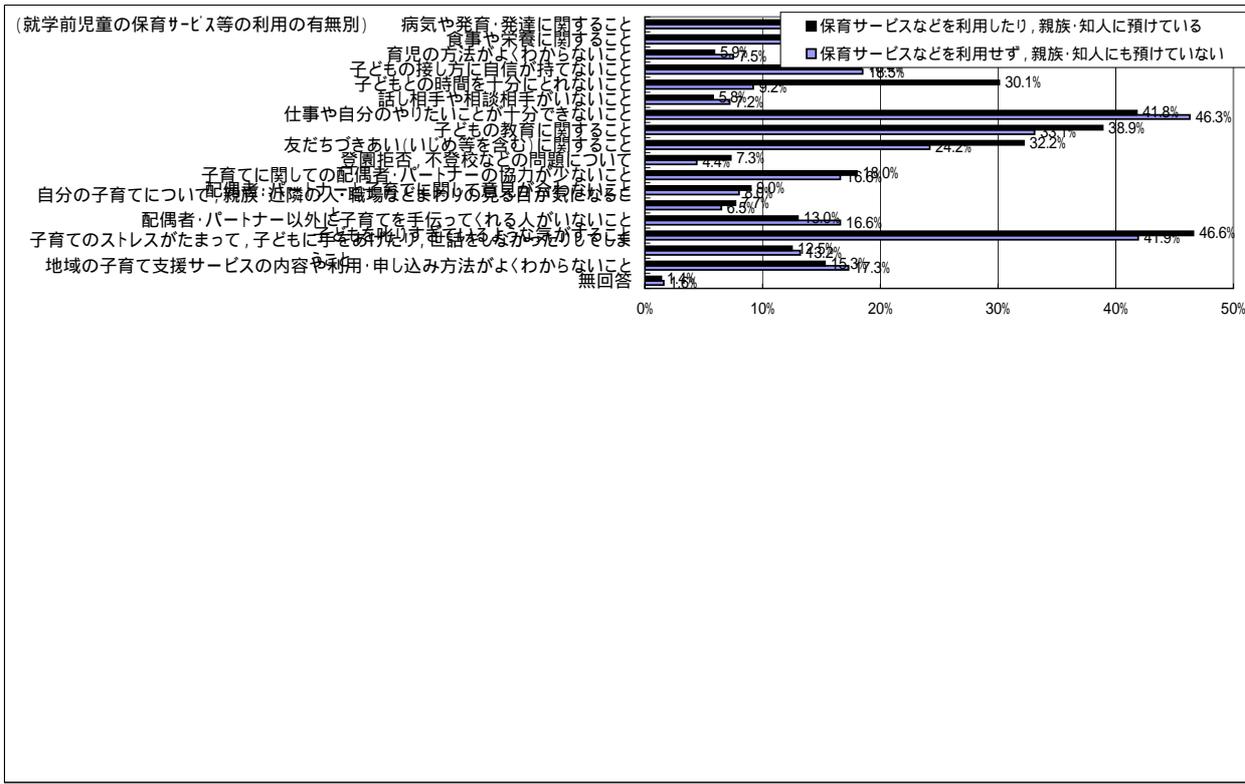
就学前児童の保育サービス等の利用の有無別では、「子どもとの時間を十分にとれない」「子どもの教育」「友だちづきあい（いじめ等を含む）」、「子どもを叱りすぎているような気がする」などに関しては、保育サービスなどを利用している保護者の割合が高く、子どもの「病気や発育・発達」、「食事や栄養」、「仕事や自分のしたいことが十分にできない」などに関しては、保育サービスなどを利用していない保護者の割合が高くなっている。

中でも「子どもとの時間が十分にとれない」は、保育サービスの利用の有無によってその差（約21ポイント）が顕著に表れている。

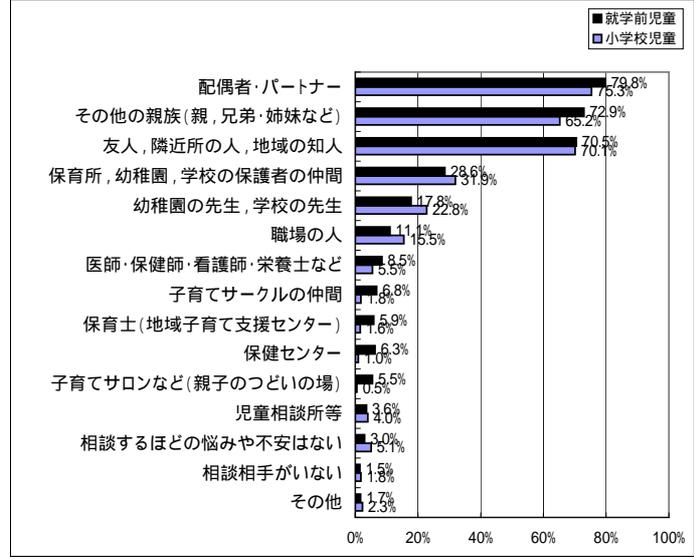
また、「子どもとの接し方に自信がもてない」、「子どもを叱りすぎているような気がする」、「子育てによるストレス」など、子育て全般に関する親としての悩みや「子育てに関しての配偶者・パートナーの協力が少ない」、「配偶者・パートナーと子育てに関して意見が合わない」などの配偶者・パートナーに関しては、保育サービス等の利用の有無による大きな差はみられない。

（保育サービスなど）

認可保育所、幼稚園、認可外保育施設、ベビーシッター、家政婦及びさっぽろ子育てサポートセンター事業



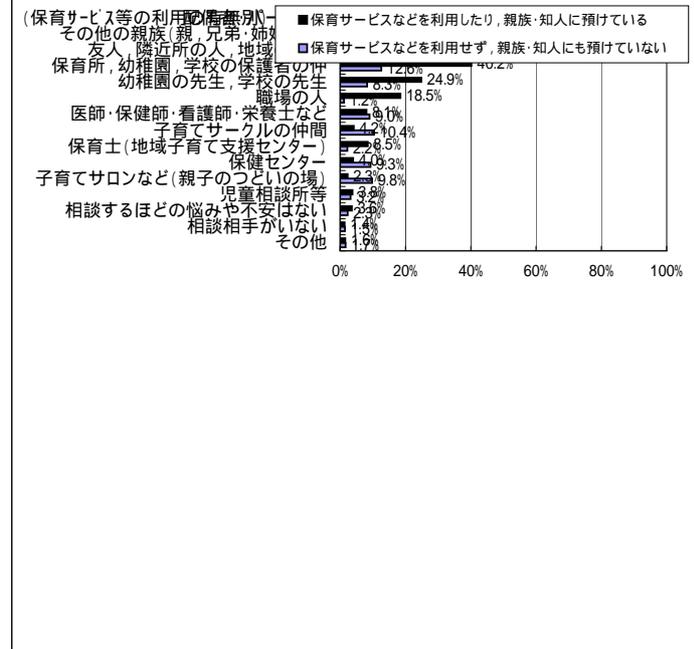
3. 身近な地域で、子育てに関する悩みや不安をどなた(どこ)に相談していますか？(複数回答)



上図 就学前児童:問25 小学校児童:問12
下図 就学前児童:問7×問25

就学前児童・小学校児童の保護者の多くは、子育てに関する悩みや不安を「配偶者・パートナー」、「その他親族(親, 兄弟・姉妹等)」、「友人・隣近所の人・地域の知人」など、身近な人に相談している。
次に、「保育所・幼稚園・学校の保護者の仲間」や「幼稚園・学等の先生」、「職場の人」など、日頃子ども又は保護者が通っている所での相談が多い。

就学前児童の保育サービス等の有無別では、保育サービス等を利用していない保護者は、「配偶者・パートナー」、「その他の親族(親, 兄弟・姉妹など)」、「友人, 隣近所の人, 地域の人」などの身近な人や地域で親子が集まれる「子育てサークルの仲間」、「地域子育て支援センター」、「子育てサロン」などに相談している割合が高い。
また、保育サービス等を利用している保護者は「保育所・幼稚園・学校の保護者の仲間」、「幼稚園・学校の先生」、「職場の人」など、子ども又は保護者が通っている所に相談している割合が高い。

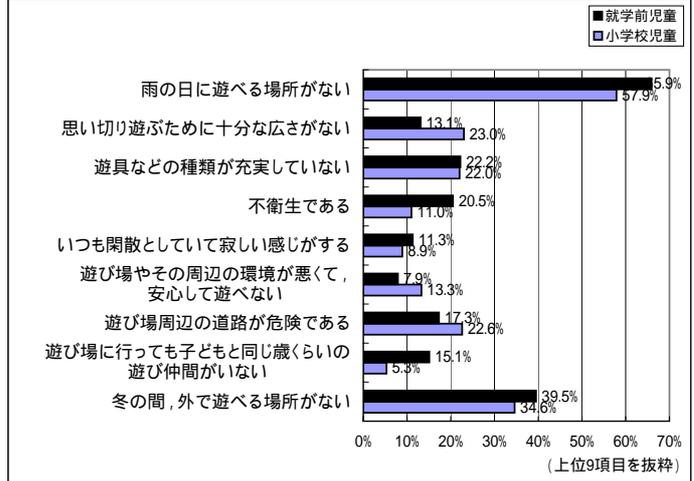


《児童相談所等》
児童相談所等には、「児童相談所」以外に「母子・婦人相談員」、「民生・児童委員, 主任児童委員」、「家庭児童相談室」、「教育センター・教育相談」、「民間の電話相談」が含まれる。

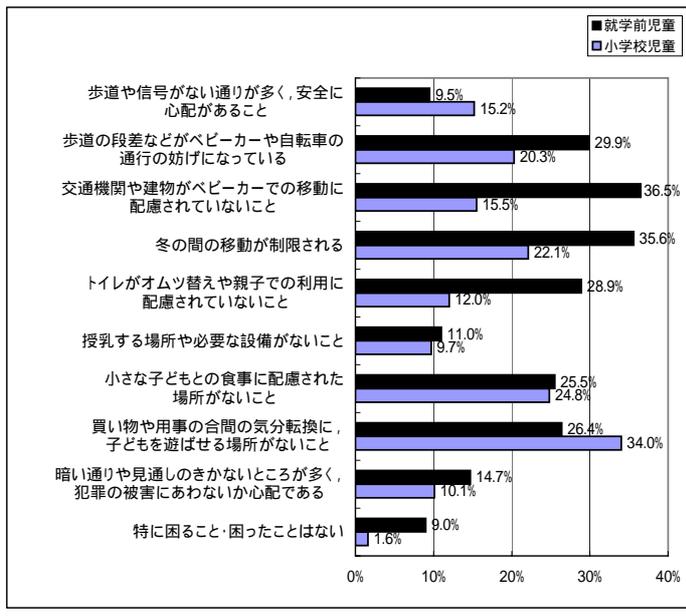
4. 家の近くの子どもの遊び場について、日頃感じていることはありますか？(3つまで選択)

就学前児童:問28 小学校児童:問14

就学前児童・小学校児童の保護者の多くが、「雨の日」や「冬の間」に遊ぶことができる場所がないと感じており、中でも就学前児童の方がその割合が高い。
また、小学校児童の保護者は、子どもが子ども同士で遊ぶようになり、また、行動範囲も広がるため、就学前児童の保護者に比べて、「思い切り遊ぶための十分な広さがない」「遊び場やその周辺の環境が悪くて安心して遊べない」「遊び場周辺の道路が危険である」と感じている人の割合が高い。
一方、就学前児童の保護者は、「不衛生である」、「いつも閑散としていて寂しい感じがする」、「子どもと同じ歳くらいの遊び仲間がない」と感じている割合が高い。



5. 子どもとの外出の際、困ることや困ったことはありますか？(3つまで選択)



就学前児童：問29 小学校児童：問15

就学前児童の保護者の方が、小学校児童の保護者に比べて、外出する際の全般について、困ることや困ったことがあると感じている。特に、「歩道の段差」や「交通機関・建物」、「トイレ」などの移動に伴って必要な施設・設備面での配慮がなされていないと感じている割合が高い。

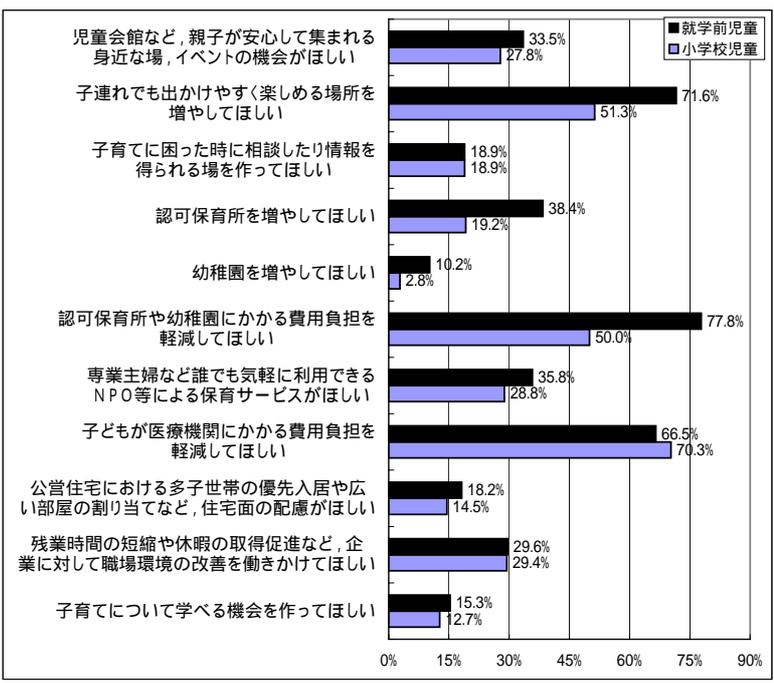
一方、小学校児童の保護者の方が、「買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所がない」、「歩道や信号がない通りが多く、安全に心配がある」と感じている割合が就学前児童の保護者よりも高い。

また、「冬の間の移動が制限される」、「小さな子どもとの食事に配慮された場所がない」、「買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所がない」と感じている就学前児童・小学校児童の保護者の割合も高い。

6. 子育て支援環境の充実のためには、どのような支援策が望ましいとお考えになりますか？(複数回答)

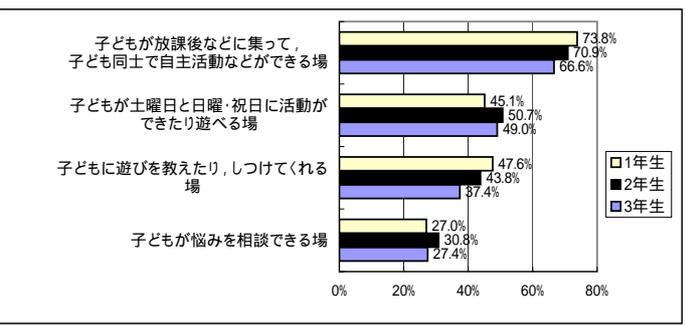
就学前児童：問30 小学校児童：問16

就学前児童・小学校児童の保護者ともに、「児童会館など親子が安心して集まれる身近な場・機会」や「子連れで出かけやすく楽しめる場所」、「専業主婦など誰でも気軽に利用できるNPO等による保育サービス」など、身近で安心して遊んだり、気軽に受けられるサービスを望む割合が高く、また、「認可保育所や幼稚園にかかる費用」、「子どもが医療機関にかかる費用」の負担軽減などの経済的な支援を望む割合も高い。



7. 身近な地域で、子ども同士が交流等を行うことのできる場ができた場合、どのようなものが望ましいとお考えですか？(複数回答)

小学校児童：問20



子ども同士が交流等を行うことのできる場ができた場合、保護者の多くが「平日・休日において子ども同士が自主活動などができる場」にしてほしいと思っている。

また、4割前後の保護者が「子どもに遊びを教えたり、しつけてくれる場」を、3割前後の保護者が「子どもの悩みを相談できる場」を望んでいる。